

## 熊本大学・島根大学 合同シンポジウムが開催されました

沿岸域の環境を研究している熊本大学沿岸域環境科学教育研究センターと汽水域の環境を研究している島根大学汽水域研究センターが、10月24日（日）に、共同研究の推進を目的とした合同シンポジウムを開催しました。陸域—汽水域—沿岸域における環境研究の現状と課題、中海の堤防開削における環境モニタリングとその問題点、水域環境の人為改変における新たな研究手法の展開について、11件の講演がありました。さらに、13件のポスター発表がありました。休日にもかかわらず、40名が参加し、活発な意見交換が行われました。前日の午後には、嶋田教授、滝川教授、増田特任助教、秋元准教授の案内で、不知火永尾神社沖の海底湧水、松合の9918台風高潮災害跡、熊本新港の環境修復事業の現地見学会を行いました。

(有明海・八代海の生物—8)

## マキガイイソギンチャク

マキガイイソギンチャク *Paranthus sociatus* は、巻貝に付着して生活するイソギンチャクの種類です。多くのイソギンチャクは岩場や堤防に付着して生活していますが、本種は干潟に住むため付着する足場がなく、巻貝の殻上を生活の場としているのだと思われます。

付着する巻貝にも好みがあり、アラムシロガイやカニモリガイなど、専ら肉食性・腐肉食性の巻貝の生貝に付着しています。どうやら、本種はこれらの巻貝の食事のおこぼれにあずかっているようです。



マキガイイソギンチャク(アラムシロガイに付着)

## ハマグリ の 養殖 実験 を 実施 中 です

二枚貝（ハマグリ・アカガイ・シジミ・サルボウ）の効率的な増養殖を目指すプロジェクト「環境変化に対応した砂泥域二枚貝類の増養殖生産システムの開発」（中核機関・独立行政法人水産総合研究センター，2009～2011年）も、残すところあと1年になりました。

このプロジェクトは、環境の悪化や乱獲によって激減している二枚貝の資源量を回復するために、安価で生残率の高い種苗を生産し、同時に良好な漁場を創出して、より高品質な二枚貝を生産することを目的としています。逸見教授は、このプロジェクトでハマグリを担当しています。以下に、これまでの研究成果を簡単に紹介します。

実験では、干潟漁場、養殖筏、海老素堀池でハマグリを飼育し、成長と生残を比較しました。飼育は、干潟漁場と海老素堀池では潮間帯に籠を設置して、養殖筏では砂を入れた籠を養殖筏から海中に垂下して行いました。その結果、養殖筏での垂下養殖が最も成長がよいことがわかりましたが、同時に繁殖期直後の8～9月に斃死が起きやすいことも明らかになりました。一方、干潟漁場と海老素堀池では成長は遅いものの、死亡率は非常に低いという結果が得られました。今後は、養殖筏と海老池での養殖を季節的に組み合わせて、より成長した大型のハマグリを多数生産できる技術を開発したいと考えています。幸い、天草地方には、現在は使用されていない真珠養殖筏や車海老養殖場が多数あり、これらの施設でのハマグリ養殖は、施設の有効利用にも貢献すると思われる。



ハマグリ の 垂下 養殖 を 行っ て い る 真 珠 養 殖 場 跡 地